

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

草の根無償資金協力調印式	P 2
会員総会のお知らせ	P 3
続・夏の思い出	P 4



小老樹の林にこらバと飼い主。自身は育たなかった小老樹も、葉を落とし、土を肥やした

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る
- ☆KDD グリーンアースダイヤルに登録する

etc.

あなたのご参加を待っています!

1996・10

50

外務省 草の根無償資金協力 大同で調印式



なごやかに調印式がおこなわれた

大同市南郊区に建設中の「地球環境林センター」に外務省草の根無償資金協力・100,335USドルが決定し、私たちの緑化協力事業も大きく加速することになりました。その調印式のもようを大同から伝えてきました。

8月19日、日本国駐華大使館の貞岡参事官、松山理事官を大同に迎えて、「日本国政府無償援助による霊丘県希

望プロジェクトならびに緑の地球ネットワークプロジェクト調印式」が開催されました。

緑の地球ネットワークが提出した内容は、大同市南郊区平旺の地球環境林センター建設で、このセンターは完成後、育苗、試験、研修などの機能を備えた総合的な拠点になり、黄土高原の緑化活動に重要な役割を果たすこととなります。このことを日本政府はとても重視し、貞岡先生は、中日協力のひとつの模範だとのべました。

大同滞在中に、貞岡参事官と松山参事官は関係者と懇談をおこない、あわせて大同の名所・雲崗の石窟を参観しました。(緑色地球ネットワーク大同事務所所長・祁学峰)



大同の新聞でも報じられた

国際緑化推進センターの 助成決まる

(財)国際緑化推進センターから中国黄土高原緑化への助成が決まりました。金額は600,000円で、大同市新栄区と南郊区に建設する「地球環境林」に植林するヤナギ、アズ等苗木代としてつかわさせていただきます。



沙漠化地域の生活と環境

～講演会の報告

沙漠化地域の生活と環境と題して、GENの黄土高原での緑化協力の現状報告と今後の課題の検討をかねた講演会が、9月24日、弁天町市民学習センターで開かれました。講師にワーキングツアーにも参加された樋田勲先生、小川房人先生をおむかえし、所用で仙台から来阪された遠田宏先生もくわえてそれぞれの専門の見地からお話をし



60人ちかくの参加者が熱心に耳をかたむけた

いただきました。

全体については紙数がたりませんが、印象に残ったことをふたつ。

まず、樋田先生の「天鎮県李二烟村で、労賃で給水設備をつくったことが、本当に村人のためになるのだろうか」という問題提起が衝撃的でした。谷底から水を担ぎ上げるのは大変なことだけれども、毎日の仕事であればこなせる。しかし、いったん給水設備の便利さになれてしまえば、なんらかの故障がおきたとき、再び谷底まで水汲みに下りなければならない。それは、村人にとってよりつらい仕事になるのではないか。地域固有の自然条件のなかで暮らしてきた村人の生活を変えてしまってよかったのか、というご指摘です。

「(給水設備ができて)老後の心配がなくなりました」という李二烟から

の手紙に、「あの村もほんのすこし、暮らしやすくなったんだ」と喜んでいただけの私には思ってもみなかったことであり、考えさせられました。私自身の結論めいたことはひかえませんが、この問題は、便利さの追求という観点からすれば、李二烟村だけでなく日本の私たちの生活にもかかわることだと思います。

また、講演中小川先生がふれられた草をもちいた緑化・土壌改善に関しての会場からの質問に、3人の先生方がマイクの順番待ちをして交替でコメントされていた姿がとても印象的でした。

乾燥がきつく自然条件が悪い、土もよくない、人びとの暮らしもきびしい、なんだかともんでもないところで緑化協力をしているんだなあ、とあらためて実感。でも、講演していただいた先生方をはじめたくさんの方々力をあわせて、これからも協力をつづけていこうと思いました。(東川貴子)



絵はがき 中国・黄土高原の四季 完成!

昨年の夏から3回、黄土高原を訪れている写真家、橋本紘二さんのご協力で、新しい絵はがきができました。

“黄土高原の四季”をテーマに、今回、春と夏の2セットを作成。絵はがき8枚で1セットになっています。厳しい環境のなかでたくましく生きる農民の姿を写し取った『春』篇、あっとい間に過ぎ去る夏の輝きを切り取った『夏』篇、どちらも素晴らしい出来映えです。年賀状にも最適。ぜひ、ご利用ください。

また、今後『秋・冬』篇も製作予定です。楽しみにお待ちください。

★絵はがき『中国・黄土高原 春』
『中国・黄土高原 夏』

撮影・橋本紘二

各セットカラー8枚組

●価格：1セット700円（郵送料別）

※6セット以上の場合、1セット600円（送料込み）

20セット以上の場合、1セット500円（送料込み）



関東ブランチから

関東ブランチ、秋の予定です。

★講座「緑の中国」第2回

「中国中世の森一志怪・伝奇小説の世界」

○講師：上田信（立教大学助教授）

○日時：11月9日（土）15時～18時

○場所：立教大学7号館710教室

○問合せ：上田信（TEL. 03-3838-1695、

E-mail: GFA06526@niftyserve.or.jp.)

★合宿・雑木林の散策（前号で10月26～27日とお知らせしましたが、会場の都合により変更しました）

○日程：11月9日（土）～10日（日）

○場所：東京都青年の家（青梅）

○申し込み必要

○詳細は工藤寛之（TEL. 0467-31-3205）までお問い合わせください。

グリーンアースダイヤル KDDから協力金

国際電話を利用されるみなさん、もうGENとKDDのグリーンアースダイヤルに登録されましたか？

このKDDからの協力がはじまってから半年あまりが過ぎ、2月から7月まで半年分の協力金111,85円が送られてきました。ちなみに現在の登録回線数は148、開始直後の2月度の協力金は6,000円あまりだったのが、6月、7月には1か月あたり30,000円前後になっています。

登録するだけで利用者の負担はいっさいなしと、気軽にできる緑化協力、グリーンアースダイヤル。ぜひ周囲の方にも広げてください。申込用紙はGEN事務所（TEL. 06-583-1719、FAX. 583-1739）に用意しています。電話での申し込みもできますので、お気軽にお問い合わせください。

第3回 会員総会のお知らせ

前号でお知らせしました会員総会の詳細が下記のとおり決まりました。会員の方にはのちほど報告文書等とあわせて改めてご案内をさしあげますので、みなさまのご参加をお待ちしています。また、記念公演は公開ですので会員以外の方もお気軽にご参加ください。

緑の地球ネットワーク第3回会員総会

●日時：1996年11月30日（土）

【進行予定】

13時 開場

13時15分 ビデオ上映

13時30分 記念公演

講師：柴谷篤弘さん
（元京都精華大学学長）

14時30分 会員総会

16時30分 終了

●場所：エルおおさか（京阪・地下鉄「天満橋」駅から西へ約300m、TEL. 06-942-0001）

会報隔月刊化のお知らせ

前回の会員総会で隔月刊化が承認されたものの、なんとか月刊で続けて、との声に努力してきましたが、やはり事務局の負担が大きく、隔月刊化を決定しました。来年より、奇数月の刊行になります。あわせて、企画・取材・編集のボランティアスタッフも大募集!! GEN事務所までお電話ください。

チコロナイ子どもキャンプ

続・夏の思

前回のつづきです。一部分だけですが、全員登場してもらいます。全文読みたい方は、文集ができていますので、武田繁典 (TEL/FAX. 06-704-7720) までお問い合わせください。

▼(前略) 私は、アオダモと木のまわり145cmもある大きなシラカンバに名札をつけました。(中略) アオダモはアイヌ名イワニといます。そういえば、平取のウポウの中にイワニテッカーとあり、神様のおりてくる木です。シラカンバはアイヌ名レタツタニといます。レタラ=白い、タツ=カバ、ニ=木で白いカバの木となるわけです(菅野茂のアイヌ語辞典による)。このレタツタニは山の平たんなどところに1本スツと立っており、そのすがたに何かひかれてしまいました。(中略) 貝澤太一さんには、シナの木の内皮で糸をよることを教えてもらいました。この糸でサラニブ(背負い袋)などをつくるそうです。(中略) 根気がありますが、細いひもができてあがっていくのは何ともいえずうれしいものでした。こうしてふりかえてみると(他にもまだまだあるのですが)、本当に貝澤耕一さんをはじめ、二風谷でお世話になった方に心から感謝したいと思います。最後に、参加した10人の子どもたち、スタッフの皆さんへ。思い出深い3泊4日でした。また、行きたいですね!(勝山 明彦)

▼最初はドキドキしていました。何度も訪れている北海道で、二風谷も3度目だけれど、キャンプをしに行くのは初めてだったし、しかも小学生を10人も連れていくだなんて、大丈夫なのだろうか?...と。

いま思えばつまらない心配です。キャンプを終えて、いつも通りの生活に戻りたいま、あの4日間がどれだけ楽しかったかひしひしと感じています。(中略)

朝早く起きて掘ったジャガイモ、入るたびにドキドキした手作りのトイレ、自分で選んだ木の名前、朝の冷え込み、川の水の冷たさ、テントで寝るときの背中のごつごつした感じ、緊張したパ

ジェロミニの運転...。そして、今回のツアーすべてをつつんでくれていた二風谷の大地と、いつも変わらず温かい貝澤さん一家、そしてそして、「小学生に戻った気分」と「小学校の先生になった気分」を味わわせてくれた10人の子どもたち、イヤイライケレー!(石田礼子)

▼(前略) 朝4時半ぐらいにおきたからねむかった。いもほりにいってめっちゃでかいもがほれた。あとでそのいもをゆでてたべたけどとってもおいしかった。

木のぼりをしたけどめっちゃむずかしかったけどきねんになった。おどりの体験したけどつかれててあまりおもしろくなかった。(中略) けっこうつかれたけどまた、みんなといっしょにいきたいと思った。(橋野 杏平)

▼(前略) 木ぼりは、うろこぼりができたからうれしかったです。(中略) また北海道にいきたいです。いったときは、ぼくのサインをかいた石が、ちゃんと、家にあるか、見たいです。すっごくたのしかったです。(北本 竜太)

▼(前略) 山登りをして山の木に自分の名前をまきました。川でどんこもみつけてそれを取って食べました。アイヌのおどりやはくぶつかんもいきました。それで大阪はどうもろこしと言うけど北海道ではとうきびといわれています。

夜、山を見るとしかの目がピッカとひかってとてもぶきみだった。でもとてもおもしろかったです。また二風谷とゆうところにいきたいです。それでまたいった時、木はどんな木になるかたのしみです。(橋本 健太)

▼(前略) 行ってよかった。知らない人なのに1日もすればすぐに友達ができてしまう。そして、みんなでテントをはったり、夕食を作ったりする。木にこれは、なんの木と何年何月何日と

かいとけば、もし何年後にきたらその木を見てどうゆうことをしたか思いだせると思う。農作業もあまりやることがないのでいい思い出になった。こんなに楽しいならきかいがあったらまた来たい。(上牧 哲郎)

▼(前略) 朝早く起きて、イモほりに行った。ひとくしかぬいてはいけなかったの、あまりとれないと思っていたら、想像以上の数でできた。

ふくろいっぱい、入らない人もいれば、小さいのが多い人もいた。

その後、山登りをした。その山は、チコロナイの土地があって、そこで、自分が気に入った木に、その木の名前を名札に書いて、ぶら下げる仕事をした(名前がわからない木もあった)。(石原 佑一)



チコロナイの森にて

▼(前略) 4日目は、博物館に行きました。1つ目の博物館は世界最大のチョウザメのはく製が展示してありました。その博物館は、ふつうの博物館とちょっとちがいました。それは、どうぞご自由におさわりくださいと書いてあったからです。そしてチョウザメのはく製をさわったらざらざらしていて、いたかったです。ほかにも服とか水筒がありました。アイヌ語も書いてありました。2つ目の博物館は首飾りやおぼんなどいろいろありました。ビデオを見る所もありました。(後略) (神田 博功)



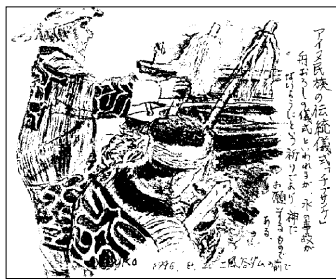
思い出

第3回 二風谷
ワーキングツアー

こちらもおほんの一部です。でもまたつぎのワーキングツアーにつなごうと思います。

▼(前略) ティッシュペーパーや家具などにパルプや合板の材料として、海老の養殖などに世界中の熱帯雨林、マングローブ林を壊滅的に奪い尽くさんとしてきて、批判を浴びてからさらに針葉樹林の収奪にも手を染めた「日本人」の悪行を止めさせるためにも、私たち「日本人」の大量消費・大量生産生活のあり方に、ささやかに「ノー」をつきつけているアイヌモシリでのチコロナイの運動により関心が生まれ、また身の回りの再点検の必要性を強く思いました。今後とも、自分自身の生活や具体的な事柄での連携をつうじて、新しい価値観を共有したい思っています。(後略)(京都府・本田次男)

▼このワーキングツアーに参加して、私たちは私利私欲のため自然を破壊してはならないこと、自然の均衡やあり様を考えず、自然の形を変えたとき、自然から報復を受けること。効率よい建築資材と



チプサンケの儀式
—吉田康子さんのスケッチ—

してどこもかしこもスギを植え、いまスギ花粉アレルギーに悩む人が多くなっている。鉄砲水で家屋や道路が崩れている。物質欲にかられ、便利と快適さを求めて、工場建設、車製造、観光開発を自然を破壊し無計画に進めたために、SO₂の異常発生で、酸性雨が降り森林が枯れていっている。

飽食の生活のなかから、処理できないゴミの山。そのなかからダイオキシンやトリハロメタンなどの消し去ることのできない毒物を作ってしまった。ますますありとあらゆるものの生命が脅かされている。こんな現在を打破するには、身近なところから害になることを慎み、断ち切り、自然を育てる努力をすることが大切だと強く思いまし

た。(大阪府・吉田康子)

▼(前略) 東大演習林では、たくさんの驚きがあり、とても満足しました。倒れた木が、次世代の命を育む、ああ、北海道の河川に上る、鮭の一生と似ているなあ、と、いろんな世界で、生きとし生けるものの不思議さのあることを知って楽しくなりました。大切な森林を守るために、気の遠くなるような、研究と作業にも、頭が下がりました。

参加人数が13人という少人数だったので、皆様とそれぞれ個人的に親しくしていただくことができましたし、キャンプファイヤーを囲んでの、語りもふくめ、全体の話し合いの時間もありました。(後略)(北海道・上野あきこ)

▼今回このツアーに参加したのは、日本における先住民族であるアイヌの人びとに会いたいという強い思いからであった。本をとおし、知識は得ら

れはするものの、やはり現地に行き、生の声を聞きたい、ましてや「チプサンケ」という伝統儀式をとおし、民族というものを理解したいと思ったのである。(中略) アイヌ民族としての誇りをもち、シャモの抑圧にカムイをもって闘いぬいてきた優しく、義に満ちた人びと、シャモに多くの警告を与えてくれる人びとに身近に出会えたことは、私の人生にとって大きな示唆を与えるものとなりました。このツアーは、アイヌの人びとの連帯のスタートであり、このきっかけを大切に、良き「シサム」となっていくように努力していきたいと切に思う。(後略)(京都府・谷本千里)

▼(前略) アイヌについて稚拙ながら



チプサンケの儀式

知りたいことがいくつかありました。エコロジーが重視される昨今、アイヌ

の自然観は古くから自然との共生を旨としていたこと、なぜ文字を持たなかったかなどでしたが、貝澤耕一さんにお尋ねした

ら、自然観については「日本人が忘れてしまっただけではないですか」、文字については「権力が不必要ないように、必要がなかったからです」と、なんなく答えを返されました。目からうろこが落ちたようでした。(後略)(大阪府・吉田省三)

チコロナイアイヌ語講座
～いやでもわかるアイヌ語～
第2期第1回

- 日時：10月20日(日) 13時～19時
- 場所：GEN事務所 (JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ。TEL. 06-583-1719)
- 資料代：第2期(6回)分で200円
- 問合せ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★第1期からの人も、初めての人もどうぞ。1回だけの飛び入りも歓迎。平常は毎月第4土曜14時～16時です。

チコロナイ学習会のご案内

- 第18回 青木悦子さん講演会
～「自分史」を語る～
- 日時：10月20日(日) 17時～19時
- 場所：アピオ大阪30号室(先着60名)(JR環状線・地下鉄中央線「森ノ宮」駅すぐ。TEL. 06-941-5294)
- 会費：500円(資料代ふくむ)
- 連絡先：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)

世界の森林と日本の森林（その4）

立花 吉茂（緑の地球ネットワーク代表）

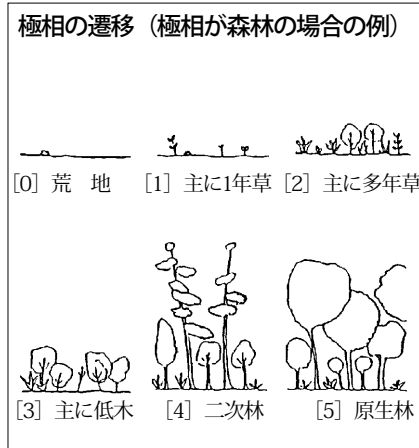
●森林の再生の仕組み

日本の森林は伐採しても年数さえ経てば自然に復元するが、その遷移の途中の、植物の種類の移り変わりは、実に巧妙にできていて感心させられる。森林を伐採すると、いままでと異なった劇的な環境変化が起こる。その第一は地面に強烈な太陽光が当たることである。樹木の葉で覆われていた薄暗い、湿った環境はたちまち、明るい乾いた環境に急変する。そんなところを好む植物群がまず土地を占領する。彼らを先駆植物（パイオニア）と呼ぶ。彼らの種子は、ダンドボロギク、ガガイモ、タンポポのごとく、落下傘のようにフワリフワリと飛んでくるものもあるが、昔の種子が生き残っていて発芽してくるものも結構多い。私の調査では30年経っても発芽した種類は結構多かった。彼らの種子の多くは「硬実種子」と呼ばれるもので、種子の発芽口の閉鎖、樹皮の柵状細胞層の硬化、蠟状物質の分泌などによって吸水できない状態になっているものである。長年風雨にさ

らされて、吸水できるようになったものからじょじょに発芽し、環境に恵まれたものだけが成長するが、さもないものは光不足で枯死するが、もっとも頑固にできたやつは何十年も吸水できずに生き残っているのである。そして、伐採や山火事は、チャンス到来である。強烈な風雨や光にさらされて発芽し、先駆植物たちは、たちまちわが世の春を唄うのである。

●里山の利用

先駆植物にも順番があって、まず草



本から、そして灌木が混じりやがて陽生の喬木が場所を占拠するようになる。関西地方ではアカマツ、コナラ林が優勢で、これは「里山」として利用されたが故に多くの山はいまでもこの形の二次林が優占している。この形は100年くらいは続くのであろうか。また、コナラは萌芽性（切った株元から芽を出す性質）があるので、伐採されても全滅することはない。

この里山は、江戸時代から昭和の中頃まで、肥料源、エネルギー源、家具建築源として利用されつづけた。落ち葉だけでヘクターあたり年間7トンの乾物重がある、といわれているから、毎年これだけ生産され、消費されてきたのである。永久に絶えることのない資源の活用であった。無農薬の有機栽培で、燃料自給の農業生活はすべて、リサイクルし、自然と人間との共存の形の最終版であった。

二次林は、このように利用されるので、原生林には復元しなかったが、近年里山は放置されているから、じょじょに常緑樹が入り込みはじめているが、まだ目立つほどではない。戦時中に魚着林として保護された串本大島や、風致地区として保護された保津峡などが、やや目に付く程度である。

GENパネル展示 予定のご案内

先にご紹介した絵はがきとあわせて、写真パネルも橋本紘二さんの写真をつかって一新します。下記にパネル展示のスケジュールをご紹介しますので、この機会にぜひご覧ください。

また、全ジャスコ労働組合が同じく橋本さんの写真でパネルを製作、この秋から店舗回りもちで写真展を開くことになりました。GENのものと同じ写真をつかいますが、ちょっと豪華に仕上がります。チラシ等の案内をお見のがしなく！

★GENのパネルが見られます！

- 長野県下高井農林高校文化祭
10月19日（土）20日（日）
- ワン・ワールド・フェスティバル

- 10月20日（日）大阪鶴見緑地
- 黄土高原村祭り高槻公演
10月30日（水）高槻現代劇場
- 京都外国語大学学園祭
11月3日（日）～5日（火）
☆講演会 11月3日（日）13時～15時
- 神戸大学学園祭
11月9日（土）、10日（日）
☆講演会 11月9日（土）13時～15時
- 京都大学学園祭
11月21日（木）～24日（日）
☆講演会 11月23日（土）13時～15時
- ★上記3大学の講演会の内容は、GEN代表の立花吉茂さんや高見事務局長、ツアーに参加された小川房人さんなどのゲストのお話や、ツアーに参加した学生の体験談などの予定です。会場など詳細は、10月25日以降にGEN事務所までお問い合わせください。

自然と親しむ会 比良山で種子あつめ

晩秋の1日、比良山で山歩きを楽しみませんか。比良山ロープウェイ山上駅周辺の北比良峠で樹木の種子を採集する予定です。集めた種が、黄土高原で芽を出すかもしれません。

- 日時：11月10日（日）9時40分～15時ごろ解散予定（JR比良駅）
- 集合：JR湖西線比良駅に午前9時40分（9時47分発のバスで出発します）
- 参加費：大人 500円、中学生以下 300円（保険料をふくむ。交通費別）
- もちもの：弁当、水筒、軍手、雨具など。歩きやすい靴でご参加を。
- 申し込み：GEN事務所まで（TEL. 06-583-1719、FAX. 583-1739）
- 締め切り：11月7日（木）
- ※雨天中止

緑の中国 歴史篇 8

上田 信 (立教大学助教授)

東京近郊の流山市で、開発される恐れのある雑木林で自然観察会をしていたとき、一つの光景に遭遇しました。かつては雑木林に隣接して、野鳥が水を求めて集まる池があったのです。ところが、雑木林のままでは土地を高く売れないというので、その一角が伐り開かれてネギ畑にされてしまいました。その途端、かつては冬でも濡れることのなかった池が、干上がってしまったのです。森に降った雨水の4割から9割8分くらいは蒸発するといわれ、樹木の茂る土地から流出する水は、降雨の半分にも満たません。しかも、流出

する水も、落ち葉の堆積したスポンジのような土壌に蓄えられ、樹木の根に抱きすくめられ、じわじわと沁み出すのです。森は自然のダムだといわれるのは、そのためです。雑木林づきの池に水が常にたええられていたのも、小さな林のおかげだったのです。干上がった池を見て、かつて本で読んだ森の作用に関する記述が、生々しく思い起こされました。

流山の名もない池で起きたことが、華北平原でもあったと思われます。それも、とんでもない大きな規模で。今から2500年ほどさかのぼる春秋時代の

初頭、華北平原には、大小さまざまな沼や湖がありました。大きなものとしては、山東省の済南のあたりの大野沢、太行山の東麓の大陸沢などがあげられます。こうした湖沼の周囲には、ヤナギなどの水辺の明るい開けた土地を好む樹木が茂っていたことでしょう。こうした湖沼が、春秋・戦国時代という中国史上屈指の高度経済成長の時期を経ると、ほとんど消えてしまったのです。おそらく、戦争に打ち勝つために各国が生産力を上げようと農地を拡大し、広大な落葉広葉樹林を伐採したことが原因でしょう。

湖や沼の消失は、内陸部で大気を潤していた水分補給源が消滅したことを意味します。こうして、華北の乾燥化が、いっそう促進されてしまったのではないのでしょうか。

黄土高原村祭り 初来日!

この会報でも何度か既にご紹介していただいた黄土高原の食や映画を紹介するイベントはおかげさまで、無事盛況に終わりました。9月14日の『黄土高原の食と文化』では、会場内にGENのパネルも展示、たくさんの方にご覧いただきました。そして一連のイベントもいよいよクライマックス。10月末に、山西省のお隣の陝西省榆林から、芸術団の来日です。

黄土高原は、その厳しい自然環境のもとで豊かな地域芸能が発達した地域でもあります。土壌浸食によって削りとられた谷間に響きわたるように歌い上げられる民謡、黄土を巻き上げて力強く打ちならされる太鼓の群舞。あの映画「黄色い大地」でお馴染みの芸能の世界を今回日本で味わっていただくという企画です。来日する芸術団は、榆林地区文工団という地元で人気の高い劇団。秦腔と呼ばれる古典劇から、地元の民間芸能まで、幅広い芸域が特徴です。

黄土高原の農民は大の芝居好き。見たい芝居があれば手製の折り畳み式腰掛け椅子を小脇に挟んで何十キロも徒

歩で芝居を見に行くほど。しかも観劇は3日3晩に及ぶこともあります。こういった芝居は廟の祭りに奉納されるのが大半ですが、実はこの地域で民間の植林がもっとも活発におこなわれるのもこの廟の祭りや芝居の上演を通じて集まったお金をつかったかたちです。いわば、黄土高原の人びとの文化の結節点でもあり、農民NGOのもっとも活発な形態がこの廟の祭りなのです。黄土高原に生きる人びとの心意気を知るために、あなたも徒歩でとはいませんが、大阪で実現する黄土高原村祭りにぜひ参加されませんか？



公演は10月30日大阪府高槻市の現代劇場でおこなわれるほか、11月2日には淡路島五色町の屋外ステージで存分に彼らの芸能を披露してもらう予定です。会場では黄土高原の切り紙や手工芸品も販売。GENの活動もちろんPRする予定です。

それから、黄土高原文化交流協会の招きで、胡弓奏者の朱さんと切り紙の専門家常さんが1年の予定で来日中。現在は大阪府茨木市に住んでおられます。在日期间中研修のかたわら黄土高原の文化紹介活動に従事。切り紙と胡弓の教室が開かれます。詳しくは黄土高原文化交流協会 (TEL. 078-271-0461) 戸村さんまで。(深尾菓子)

★黄土高原村祭り 高槻公演

- 日時：10月30日(水) 18時30分開場 17時開演
- 場所：高槻現代劇場中ホール (阪急「高槻市」駅南へ徒歩5分)
- 入場料：前売り2,000円 (チケット・セゾン、チケットぴあ取扱い。GEN 事務所でも扱っています)、当日2,500円
- 問合せ：黄土高原文化交流協会 (上記)、高槻市都市交流協会 (TEL. 0726-74-7395)



ワン・ワールド・フェスティバル

コンサートやトーク「国際交流団体へのアクセス」、スタディ・ツアー報告会などさまざまなイベントや展示がおこなわれ、GENもNGOテントで参加します。新しい写真パネルを展示、絵はがきの販売もおこないます。気軽に遊びに来てください。

- 日時：10月20日(日) 10時～16時
- 場所：花博記念公園鶴見緑地(地下鉄鶴見緑地線鶴見緑地駅下車)
- ※雨天決行
- 問合せ：関西国際交流団体協議会
TEL. 06-773-0256

心と体にやさしい音楽会 そして愛!

- 日時：11月16日(土) 14時～16時
(開場13時30分)
- 場所：ピースおおさか(JR環状線・地下鉄中央線「森の宮」駅から西へ5分。TEL. 06-947-7208)
- 出演：胡弓...馬高彦

- シンセサイザー...石川朱
- 協力券：200円(高校生以下100円)
 - 主催・連絡先：関西日中交流懇談会
(TEL./FAX. 0797-88-2240)

環境市民 エコファーム パーマカルチャーとの 出会い

パーマカルチャーとは...パーマネントとアグリカルチャーもしくはカルチャーを合成したもの(持続可能な農業もしくは文化)で、持続可能な環境づくりのためにデザイン体系をいう。

ワークショップ 「ビルモリソンがいざなう1日パーマカルチャー体験」

- 日時：11月3日(日) 8時30分～17時ごろ
- 集合：JR草津駅改札口に8時30分
- 場所：滋賀県栗東町の有機農業家桜井昭人さん宅
- 参加費：500円
- 定員：30名限定(先着順)
- ※雨天決行

シンポジウム「パーマカルチャー入門」 ～オーガニックライフへのいざない～

- 日時：11月4日(月) 10時～17時
- 場所：京都アスニー
- 参加費：200円
- ★ビルモリソン氏による基調講演・ビ

ルモリソン氏と久門太郎兵衛氏との対談

- 主催：環境市民 日本環境保護国際交流会
- ※両日とも逐語通訳つき。参加申し込み要。
- お問合せ・お申込みは：環境市民
TEL. 075-211-352 FAX. 075-211-3531
E-mail cefngo@mbox.kyoto-inet.or.jp

国際ボランティアの集い'96

- 日時：11月2日(土) 14時～17時
(開場13時30分)
- 場所：MIDシアター(OBP)(TEL. 06-941-0941)
- 内容：
 - ◇基調講演「わたしのボランティア活動」二谷英明氏
 - ◇パネルディスカッション
 - ◇イルカコンサート
- 応募方法：往復はがきに郵便番号・住所・氏名・年令と返信先の宛先を記入して下記まで。はがき1枚につき2名まで応募可。
- [宛先] 〒530-91 大阪中央郵便局留「国際ボランティアのつどい'96」係
- 締切：10月14日消印有効
- 主催：近畿郵政局
- 問い合わせ：国際ボランティアのつどい'96事務局(TEL. 06-356-7774)